

生物育成に関する技術ノート 「ミニダイコンの育成」 資料

◇大根（ダイコン）

地中海や中東が原産のアブラナ科の野菜です。古代エジプトから食用としていた記録があります。種まきは春まきが3～4月，秋まきは8～9月で，収穫期はどちらも40～50日くらいです。料理の幅が広く，他の食材となじむので，「おでん」などの煮物がおすすめです。大根おろしや漬け物としても食べられています。葉の部分はスズシロ（清白）と呼ばれ，春の七草のひとつです。ミニダイコンは，大きいもので根の長さは15cm，太さは10cmくらいになります。

◇ミニダイコンのプランター栽培

1 種まき

①プランター（各班2つ，男女各1）の底にティッシュペーパーを敷く。（土の漏れを防ぐ）

※プランターのサイズ：

40cm×18cm×14cm（深さ）

②土（培養土）を，プランターの1/3くらいまで入れる。

③肥料（油かす）を，図1のように10粒ずつ入れる。

④上から残りの土を全部入れ，表面をならす。

⑤図2のように，6か所に，指で深さ2cmほどの穴をあけ，種を4粒ずつ入れる。

⑥まわりの土を寄せて手で軽く押さえる。

⑦水をたっぷりやる。

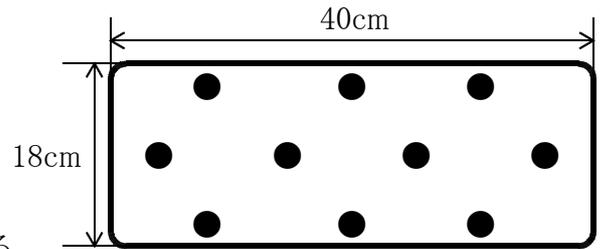


図1

●：油かす

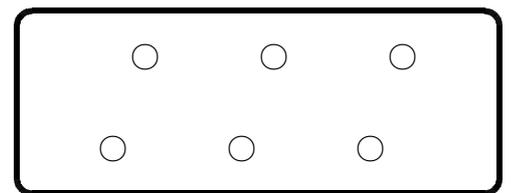


図2

○：種をまく穴の位置

2 害虫対策

※発芽後～本葉が大きくなるまでは，害虫の被害に遭いやすいので，細かい目のネットで覆い，害虫の侵入を防ぎます。害虫を防ぐ農薬もありますが，できる限り無農薬栽培にチャレンジします。

害虫の例：アブラムシ，アオムシ，ダイコンシンクイムシなど

①右の図のように，アルミの針金でネットをかける骨組みを作る。

②骨組みをプランターに取り付け，防虫用のネットで覆う。

③ゴム紐で，ネットをプランターに固定する。



3 間引き

※1か所に4粒ずつ蒔いた種から出た株のうち，生長のよい株を残し，残りの株を抜き取ります。

1本に養分を集中させ，大きく生長するようにします。間引きした株は，「間引き菜」として，サラダなどにして食べることもできます。

①本葉が数枚開き，株全体の色が濃くなってきたら間引きする。

②生長の悪い株を抜き取り，1か所1本にする。

生育の遅れているもの，葉の色が悪いもの，葉の形が奇形のもの，病虫害に侵されているものや，逆にあまりにも生育が旺盛なものも間引きします。

③株同士がくっついていることがあるので，株を傷つけないよう注意しながら間引きする。

④間引きが終わったら，倒れないように根本の土を寄せ，軽く押さえ水をやる。

4 追肥

土中の養分を補うため，肥料を追加して与えます。

・ダイコンのまわりに，油かすを数個置く。